

俗謡改正草

大槻文彦自筆

洋学文庫
文庫 8
A 299



43-7209 (7)

俗謡改正草

大槻文彦



長明元教

高砂

改題相生

三下り
丹波より名高砂の杉の精目出

成御代は他の江の岸にせある時年

みけし、老木の杉の相生の、もれあけよ

色変一ぬまると、きかぬ、言の葉の、幾

世のちまう
十五り、限り、まねぬ

琴の唄え歌

西行

平桐子

我まの昔むかし、まきらまをの檀弓まゆみ、槐まゆみを、年としを
 磨ひて、引ひきたがへへ、朝夕あすなほ、命いのちまりけま、
 旅たびおちおちり、合あ、昔むかしの衣きぬ、身みを、深ふかめかかへへ、
 心の塵ちりの、袖そで拂はらふ、やほあま、世界よこふいいじ
 子の、いといとしかかははいいは、昔むかしの事こともの、吉野山よしのやま
 吉野山よしのやま、去い年の志こころをりの、踏ふかかて、ままの

見みぬ花はなの、つろつろくを、たたづづ祈いのちくくて、歌うた枕まくら
 筆ふでの、ままささみの、墨すみ深ふか櫻さくら、つろつろふふままの、花はな
 の、るる、ややせせ、姿すがたの、いいまま着あ、形かたちの、水みづの
 鏡かがみ、影かげととめめ、影かげししええある、柳やなぎ、
 ううつつししととめ

西行歌歌

静

新作

我も芳い舞姫の、白しし衣振を、ふまふ、
ちづねてかざも、思ひでの、袖も立ちを舞ふ、
静が岡、舞のむしる、いと晴しやまきて、
舞を静ふ、まづやうづ、まづの女だまき、
さうりかつし、昔をうま、あまをよし、いふ、まね
山吉野山、峯のまらぬを、みみりけて、入る

人のあとぞある、あまふあまふ、まのこ、
神の御前、舞を手の袖、了くまのま、ふ
かつれど、帰らぬ人を、いふまうせまし、
心、のひとまぢ、神、何をれ、

白雪 きんや 未定

白雪の階 たか けりさふ冬の夜
鎖 とざ さが友をまつの門 かど 素人とつがし
契 ちぎ をたのみ み 深 ふか けてまていよ いよ 夜 よ をた
窓 まど の軒 のき 端 のへ の爪 つめ 吹 ふ きいせして壁 かべ の
障 いま 障 し の まら 肌 はだ 寒 さむ や や 新 あたら び あたら び

し し び び と と う う づ づ み み び び の の み み の の 淋 しみ さい
後 のち の の お お と と あ あ ふ ふ け け の の ち ち ち ち り り の の 刻 とき
か か 牛 うし の の 下 した 枝 えだ さい

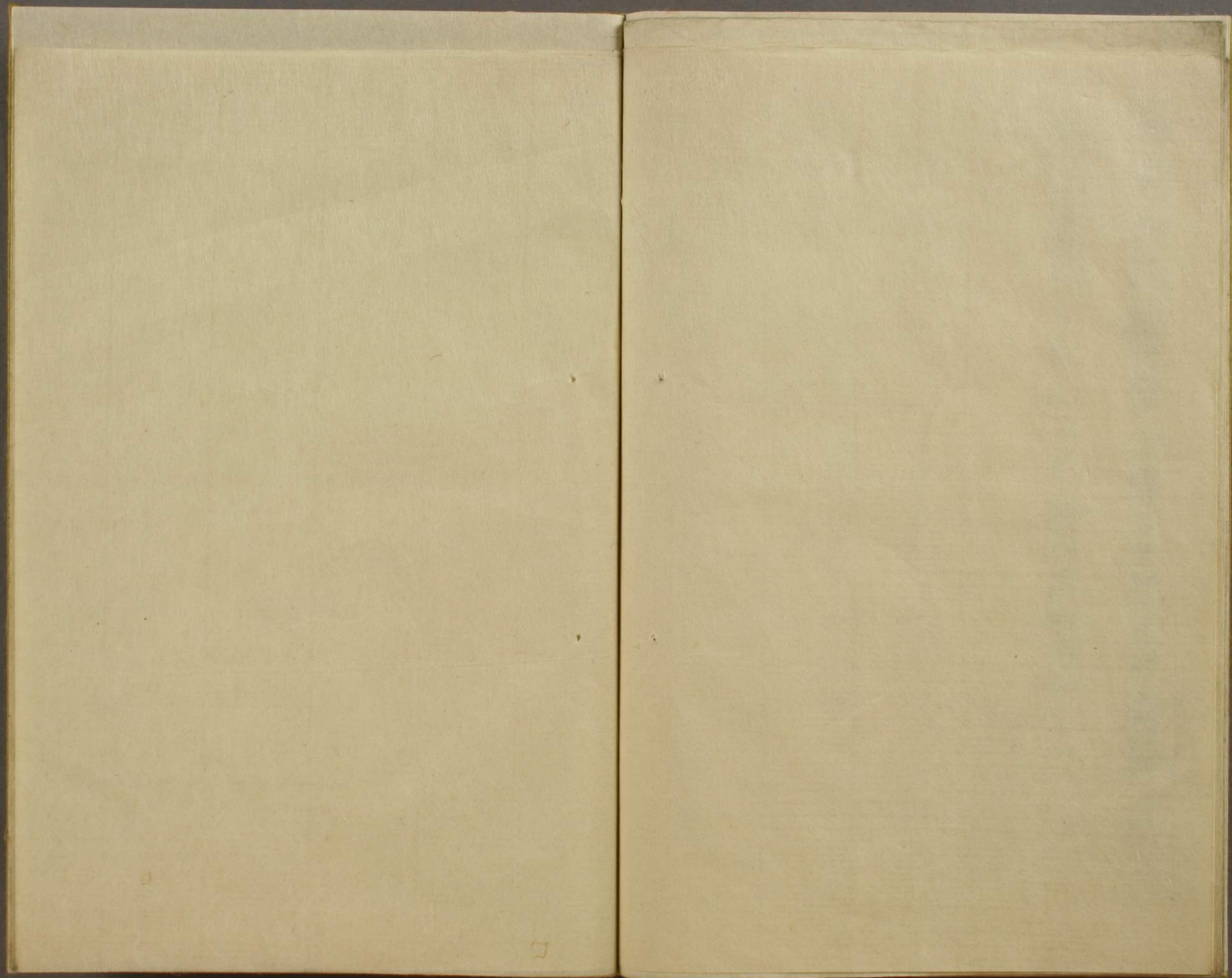
江ノ島

春還きて、今ぞはじめの夏衣、軽き袂がうら
風、おいて黒あどの退手、そあくくと、福壽圓滿、かぎり
あま、の誓ひの海、それ引く汐、干潟とあ、れをいとやま、
ほめみとは、およ、江の島の、繪も、おどそぬ、眺めが、
川、山の影を、あくみ、山、水の心、まかす、神仙の
岩屋、名よまき、ふえ、と、洞逢葉、と、そは、とつ、岩根、が我々

としと、ゆるるま 随縁真如の浪の聲、心こころをめぐる杵杵きね海うみく
 の子この打ちむして、そと碇馴小唄の貝かい盡し、はる春の
 浦うら曲まがみ来き車くるま連ついてついで、ひく引く汐しほ貝かいを打う捨する空そら
 の露つゆ、さくら櫻貝うづら岸きしみ白波しらかげうつせ貝かい波なみの花貝はなかい碎くだけ
 て浮ういて、うういて波なみ間の鷗うの心こころ東風とうふうの追手おしをまて
 貝かいと船ふね沖おき行く帆ふか立た貝かい袖そで袖そで貝かい引ひきままて
 世よの夏なつま事ことと長ながき日ひも
 悠ゆいいくくららして忘わすれ貝かい歌うたふいとふし、あまあまの海うみ。
 かの深澤ふかさわの雲くも就つく妙たぎ天女あまのめの神かみ徳とくふ、
 忽たちち一念いっげん及および起たちて、なが長く誓ちかいい龍りゆうの口くち幾い
 子こ代しろ、ああまませじじつまじ、ははるの磯山いそやま松まつの吹ふく
おかしのあまのあまのあまの
 風かぜ岩根いわねの壽しゆき、ななままでで、さささるる花はな風ふう樂らく春はる。
 海うみ波なみを奏そうたたああ、ななととららすすれれや、なな名なしし貝かいふふ妙たぎ
 音ね菩薩ぼさつの神かみへの経きやうを、なが長く侍まじへて、ああまま自在じざい。

壽命長久繁榮を、守らたまふ御神の
廣き恵みぞありがたき、以るまめぐみそ

一何らうんまじ



以下
2丁
白紙

